



全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

第69号(令和2年2月号)

時重ねついにネットも成人式（直人）



全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局 鈴木 正之
〒140-0014 東京都品川区大井1-54-6 いぶき学院内
TEL:03-5743-7458 FAX:03-5743-7459
Mail:center-office@shijyuku.net

理事長 仲野十和田
TEL03-3963-5572
広報部長 大住 明敬
TEL048-957-8608

理事長コラム



「全国1位（単科）4名」

朝日学習館（梶原賢治先生）、前回の四谷大塚全国小学生テストの結果です。梶原先生とは学生講師時代から、かれこれ35年ほどお付き合いさせていただいています。若い頃からいろいろなことにチャレンジされて、私にとってとても刺激的な存在です。先日（1/19）、J K K（塾教育研究会）主催の研修会が朝日学習館で行われましたが、改めて、教育の原点と思える空間を体験させてもらいました。

「今生徒が一番はまっているのは、『火起こし』です。」と言って、見せてもらったのは、木と紐で作られたお手製の火起こし道具。机の上に置いて、チャレンジすると、これが結構面白い！煙が出てくると感激ですが、腕がパンパンになります（笑）。

また、梶原先生がここ数年はまっているのが、ミドリムシやゾウリムシの観察。近くの田んぼの水たまりからペットボトルに取ってきて、その動きを生徒と一緒に楽しんでいることです。また、電子顕微鏡（1万円位）で観察するにも丁度良い生物だそうです。動物のようですが、光合成もするので植物でもあります。すなわち、どんな環境でも生き延びる性質を持ち合わせているこの生き物、梶原先

理事長 仲野十和田（ナカジュク・東京都）

生の口上にかかると、地球最強生物に對しているような尊敬の念が生まれてきます。

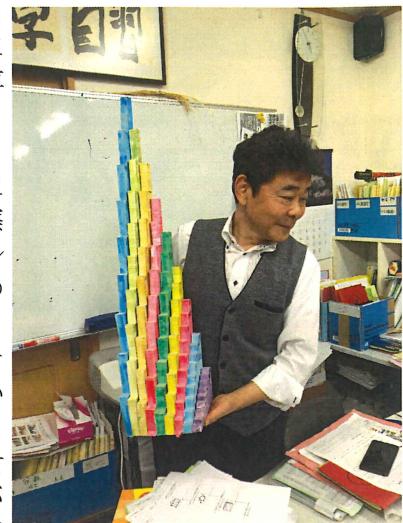
生徒が拾ってきた石ころも立派な観察材料ですし、パズル教材もお手製のものが盛りだくさんで、生徒の好奇心をそそる仕掛けがいっぱいです。

授業の見学もさせていただいたことがあります、決して詰込みではないので、人間的にも魅力ある生徒さんが育っている印象でした。梶原先生が以前言っていた言葉で、とても印象に残っている言葉があります。

「私は教えるのが下手だから、生徒が勝手にやって理解できる教材を作っています。」…。朝日学習館では何年も前から、本当の意味での『自立学習』が始まっていました。梶原先生とお会いするといつも、新しい本や教材を、子どもが新しいおもちゃを手に入れたように紹介してくださいます。オリジナリティーの強い朝日学習館のカリキュラムを真似ることは難しいですが、梶原先生のようにいつまでも好奇心を失わないで、この仕事をやっていきたいと思います。

さて、私塾ネットは4月で20周年を迎えます。「不易流行」…、団体の在り方も考えていかなければなりません。昨年末、第1回20周年実行委員会では、私塾ネットが最初の頃に行っていた教務研修が話題になり、「今回は初心に戻り、特別な講演者は呼ばず、参加者が教務について学び合う会にしよう。」ということで意見が一致しました。また、団体の役割としては、学校・塾・業者のつなぎ役的存在（その時は『ハブのような存在』という表現がでました）になっていければと合意がありました。

私塾ネットは成人式を迎えますが、子どものような好奇心を忘れず、ミドリムシのように、様々な環境に適応できるような団体でありたいと願っています。



朝日学習館の梶原賢治塾長

第18回 全国塾長・職員研修大会 [2020.4.19]



現場の
教育力を
上げる。
深める、深まる。



ファシリテーター
小山 英樹 氏
一般社団法人日本教育メソッド
研究機構 (JEMRO) 代表理事

2020年4月19日(日)
WEBSITEからカンタン参加申し込み!▶
form.shijuku.net
東京・ガーデンパレス 東京都文京区湯島1-7-5
TEL. 090-1506-2077

大会事務局: 〒140-0014 東京都品川区大井 1-54-6 (ひざぎ園内)

E-mail : suzuki@ibukigakuen.co.jp

TEL. 090-1506-2077

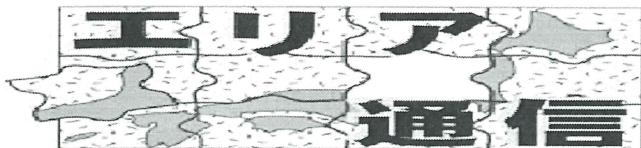
https://www.shijuku.net



私塾ネット設立20周年

全国塾長＆職員研修会ポスター

詳細は本文の研修大会の案内をご参照ください。



エリア東北代表 安藤 水無子
(Andy's・青森県)

2020年が始まりました。明けましておめでとうございます。今年はオリンピックイヤーですが、周りにチケットが当選したという人も全くないので、ここ青森ではまだオリンピックの匂いはしていません。(もしかしたら、私だけなのかもしれません)・・・)

毎年のように「今年は暖冬です」とニュースで言われていても、八戸であまり感じることがなかったのですが、1月に雪ではなく雨が数日降った時には、「今年は暖冬だ!」と実感しました。八戸は太平洋側に位置しているので冬でもあまり雪が降らないのですが、流石に1月に雨が降るということは無かったように記憶しています。八戸だけではなく青森市へ行った時も全く道路に雪が全くなく、アスファルトがむき出しでした。夕方には雨が降り出し、一体今年の夏はどうなるのかと心配しています。(やはり降るべきものが、降るべき時に降らないのは異常ですね)

昨年は「AIに負けない子どもを育てる」を書かれた新井紀子先生の講演を聞く機会があり、自塾の生徒(小学5年生~高校3年生)全員にリーディングスキルテスト(体験版)をやらせてみました。(もちろん、私もやってみました)結果は、「えっ、こんなにできないの!」と思う生徒が數名いて、「だからか、あーやっぱり」と納得することがあり、「正しく読むということ」について考えさせられました。さらに、冬休みに模擬試験を行い、小学4年生の算数の問題でこれは中学生でも解けない(問題が難しいのではなく、問題文を読んで考えることができない)だろうと思い、中学1・2年生にやらせてみたら半数以上が間違いました。(学校の定期考査で20番以内の子どもたちです)この子どもたちを1年、2年後の高校入試に向けてどう鍛えていけばいいのか、これが今一番の課題です。

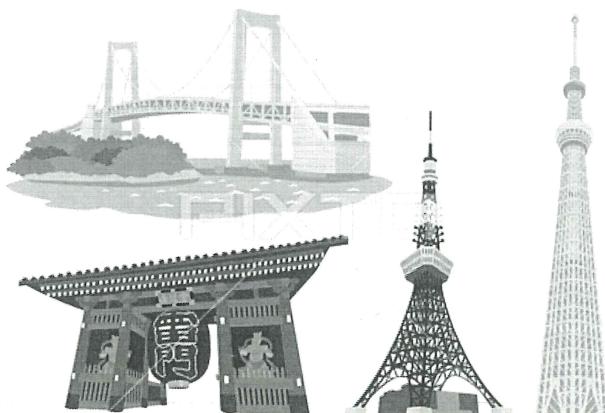
教育改革という「英語の4技能」、「小学校の英語の教科化」おまけに「プログラミング教育」とやらねばならないと思わせるものが次々に出てきます。子どもたちに必要な情報を与えられるように、今年もたくさんの先生方に色々と勉強させていただきたいと思います。よろしくお願ひ致します!



エリア関東 渡辺 浩
(渡辺塾・東京都)

2020年を迎えました。改めまして、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて2020年はオリンピックイヤーです。東京はもちろんですが、日本全国が暑い夏を迎えることになると思われます。と同時に昨年末に色々と諸問題があった大学入試も新テストとなり、教育業界も大きく再編する年になると思います。そんな中、我々学習塾の存在意義というものが改めて見直されるのではないかでしょうか。ベビーブームから教育=集団指導といった構図に始まり、少子化を迎える個別指導という新しい指導形態が生まれ、最近では自立型指導と呼ばれる第3の指導方法が生まれています。いわゆる先生(講師)のライブ授業から、PCやタブレットを用いた映像授業を用いた指導形態へと移行しつつあります。でも、この背景には正直講師不足という大きな問題があるのではないでしょうか。数年前に起きたブラックバイト問題。飲食業と我々学習塾業界はたちまち標的とされ、優秀な人材の確保が難しい状況に陥りました。業界団体も改善のための努力はしたもの、いったんついたレッテルを払拭するのは並大抵のことではありません。結果、業界全体の人材不足という事に繋がってしまいました。「自立型」というのは聞こえがよろしいですが、実態はそのような人材不足問題があるのは間違いないありません。我々私塾ネットも業界団体の一つとしてこの人材不足問題をどのように改善していくか考えていく、かつ実行に移していくべきだと思います。目の前の子どもたちの未来のために、最善の努力をしていきたいと思います。





**エリア中国代表 西本 雅明
(パワーゼミ西本・広島県)**

エリア中国の1月定例支部会は、新年昼食会を兼ねた会議になります。10時から11時30分までが会議、残り30分で昼食を食べます。結構豪華な食事を出してもらうのですが、皆食べるのが速い！僕の観察によると、稼いでいる人は食べるのが速い傾向にあるようです。僕なんかは必死で食べても間に合いません。大和なでしこのような女性会員たちも、男性会員に負けない速さで食べ终わります。そのことがあるので自塾で職員と食事をする時は、「早く食べなさい。僕に負けたら置いていくぞ。」と、脅すことにしています。（職員たちからは「西本先生は、きっと悲しい家庭環境で育ったのだ。」と、思われています。）

しかし、どのように思われても良いから、「稼げる人になりたい」と考えた末に「食べるのだけは早い人」になりました。きっとこれからです。

さて会議についてですが、議題に出てくる話題で気になることがあります。それは、「公教育と私塾との協力」についてです。まだまだ小規模な自治体に限られていますが、塾の経営者が教育委員会の教育委員になっていたり、公立の学校から運営や講習会の相談を受けたりする事例が出てきています。先日福山市では、教育委員会の主催で「民間フリースクールとの連携」ということで、福山市教育委員会の状況報告と民間からの要望等の聞き取りの為の協議会が開かれました。まだまだ、相手を探り探りの会議でしたが、回を重ねながら、連携を深めていこうという意思を感じました。

福山市を6つのブロックに分けて、それぞれのブロックごとに教室外・学校外の「多様な学びの場」を設けたいという構想です。「福山100NEN教育」というそうです。学校外の学びの場の中に「塾」も含まれるということだと思いますが、「塾でも始めちゃおうかなあ」と、軽い気持ちで起業した僕のような人種は、襟を正さねばならない時代に突入しそうです。

故山口先生から「学校に負けちゃだめですよ。」と聞かされていたころは、負けないように頑張ればよかったのですが、向こうから急に「よろしくね」と言うなんて「ずるいぞ！」と言わざるを得ません。でも、よろしくしたいと思います。どうしていいかまったく分かりませんが。こういう事は他のエリアでもあるはずですので、ぜひ聞いてみたいと思います。

驚くことに、福山市のこのような教育改革は「文科省」ではなく「経産省」の（未来の教室）が背中を押しているようです。「文科省」は何をやっているのでしょうか。

最後になりますが、エリア中国は平均年齢が上がってまいりまして、経営のお話が少なくなり、その代わりに孫の話題が多くなってまいりました。今年こそは若いピチピチ会員を勧誘したいと思います。



**エリア四国代表 近藤 誠介
(文化の森スクール・徳島県)**

2020年、公教育の崩壊はとどまるところを知らず、“ドクターX”，否、真に生徒のことを思う塾が立ち上がった。“戦後最大の教育改革”らしいのですが、“今だけ、金だけ、自分だけ”の価値観に覆われた財界、官邸主導の教育改革が、眞の教育改革といえるだろうか。教育は誰にでも語れる話題であり、プロ野球の床屋談義に陥りかねない。首相直属の教育再生実行会議がそうでなかつたことを願いますが、今回の共通テストの、英語の民間試験や記述テストの顛末をみていると、官邸主導のお粗末さが思わず露呈してしまったようで。

まず、上記の会議で、エビデンスに基づいた議論がなされたのか。例えば、英語では、センター試験にリスニングを入れた結果、英語力は上がったのか。確かにリスニング力は多少伸びたが、読解力は下がったという話もきく。6年間、英語を習ったが、しゃべれない=使えない英語。さて、スピーキング力とはどの程度をさすのか。海外のビジネスで使えるレベル、インバウンドのお客様をもてなすレベル。一海外の旅行客は、皆英語がしゃべれるのか？しゃべれない客はもてなさないのか—内田樹氏曰く，“日本人は、話せると言語が出来るという誤解がある。”では、日本語がしゃべれると、国語力があるということになるのか。どうも、この誤解の上に、英語の4技能という発想が出てきたのだろう。元より、話せることを否定するわけではないが、実際、外国の方と異国語でコミュニケーションできることは楽しいものだ。

しかし、大学で要求される言語力とはそういうものだろうか。カナダの学者カミンズは、言語能力には2種類あると主張している。BICS（基本的対人コミュニケーション能力）とCALP（認知的学習言語能力）だそうだ。BICSはいわゆる「日常会話能力」で、CALPは、大学とは言わず、小中学校でも高度な内容になると必要とされる言語能力だ。つまり、抽象度が高い内容を理解できるのがCALPだ。大学で要求されるのが、正にこの言語能力である。これらのこと踏まえた上で、民間試験導入なのだろうか。官邸の産業競力会議をリードした一財界人のTOEFL導入の声に、当時の文科大臣が従った、でも、従属はしていないのだろう。

さて、“記述問題”ですが、記述を課すことは当然のことだ。但し、共通テストのものを、まさか記述とは言えない。キチンと勉強した生徒にとっては、記述問題を解く方が楽しいだろう。要は、せめて国公立大の志願者には、全員、2次試験を課せばよいのでは。思考力等をみるための記述試験にこだわる一方、それを課さないようなAOや推薦を増やすこととの整合性は、どうなっているのか。AOや推薦で入った学生がよく伸びるという話も散見されるが、何らかのエビデンスがあるのだろうか。留年

率が高いという話も耳に入ってくるし、国立大、医学部の推薦入試では、不明朗な話を聞く。“挑戦的な”AOより、“学力逃げ”的AOの方が多いような気もする。

ところで、学科試験の変更以外にも、入試における「主体性の評価」として調査書の利用がある。

“主体性の判断”として調査書、志願理由書、学習計画表などなど。評価基準としては、評定平均、課外活動、その他の活動とある。グレタ・トゥーンベリさんのような子は、どう評価されるのだろう。主体性のない文科省や主体を奪われつつある大学が、生徒の主体性をどう評価するのか。本来、教育とは“既成概念”を壊し、自由な発想を育てることである。「主体性の評価」という名の下に“前向き”で“健全”で、都合の“良い子”を育てようと、生徒の内心の自由にまで、手をつっこもうとしているのが今回の改革の本質だ。グローバル、AIという“錦の御旗”を掲げれば、本質的な議論も無しに全てが認められる。“有識者”的「思考力、判断力、表現力」とはどこへいったのか。

最後に、今度の教育改革は、都市と地方の格差をますます拡げる可能性がある。社会格差、文化格差、経済格差、それが教育格差へと直結する。地方の塾

には、これからますますやるべきことがある。

参考文献:「国語教育混迷する改革」、「ことばの教育を問い合わせなおす」、「大学改革の迷走」「教育格差」等々



大きく変わる

千葉県公立高校入試制度

平成15年度入試から続いていた特色化選抜入試が、本年度（令和2年度）入試を最後に大きく変更となります。千葉県の公立特色化選抜入試は、2月中旬実施の前期選抜と3月末実施の後期選抜の2回の受験機会があるのが最大の特色でした。そしてその前期選抜の募集枠は30%程度でスタートしましたが、年度を追って募集比率が高くなり、現在は普通科で60%、工業、商業等の職業科では100%となっています。

特色化選抜の導入後、私立高校入試にも大きな変化が現れました。私立入試でも1月中旬実施の前期選抜と2月初旬の後期選抜が定着しました。以前の推薦入試枠であった前期選抜が推薦入試の肥大とともに、現在では前募集枠の8割を超えるようになりました。事実上入試の前倒しとなっています。

さて、今回の入試制度変更を整理します。

- ①前期・後期の2回選抜が1回選抜に。
- ②学力検査が2日間で実施され、英語科がリスニングの拡充のため60分に（他は50分）
- ③受験機会を保障する「追検査」を導入
インフルエンザ等で本検査を受検することが出来なかった生徒に、後日「追検査」を実施する。検査は本検査に準じ5教科を1日で実施。

今回の変更の背景には高校、中学の学校現場の不満がありました。ことに高校サイドは受験を2回校内で行うことの負担が大きかったようです。一方中学校では、前期選抜で多くの生徒の合格が内定することで、その後の授業が成立しづらいとの不満がありました。

さて今後の受験生の立場での影響はどうでしょうか。受験校選びが慎重になるのは当然でしょう。併願の私立受験でも同様の反応、及び受験校数の増加が予想されます。

報告：谷村志厚

令和2年度入試		令和3年度入試	
前期選抜	後期選抜	一般入試	
2/2.4 出願 2/12 一日目検査 5科学力検査 2/13 二日目検査 面接・作文・適正検査 2/19 入学許可内定 2/19-22 入学確約書提出			2/19.10.12 出願 2/17.18 志願変更 2/24 一日目検査 国・数・英学力検査 2/25 二日目検査 理・社+学校独自検査 2/26.3/1 追検査受付 3/3 追検査 3/5 入学許可者発表
	2/25 出願 2/26.27 出願変更 3/2 5科学力検査 3/6 入学許可者発表		
		2次募集	3/10 出願 3/11 志願変更 3/13 5教科検査 3/15 入学許可者発表

全日本私塾教育ネットワーク・設立20周年記念大会

「第18回 全国塾長・職員研修」

～ 深める。深まる。～ 「現場の教育力を上げる」

令和2年（2020年）4月19日（日）
「東京ガーデンパレス」

東京都文京区湯島1-7-5 お茶の水駅 徒歩8分。

オリンピックイヤー！ そう！ 私塾ネット設立20周年記念大会です。
3つの任意団体が一つとなった私塾ネットは、2001年（H13年）10月に品川プリンスホテルで産声を上げました。二十歳の成人式を迎える私塾ネット。20年を機に深化します。

私塾ネットの役割。それは教育に関わるすべての人のハブ（Hub）となることです。
ハブ（Hub）=そこに繋がると他の人に繋がる。お互いの信頼関係の上に次から次へと人が繋がり、情報や元気がもらえる。相談できる相手が見つかる。人生の師に巡り会える。その手助けとなる場が私塾ネットです。

利害関係が無く営業も絡まない任意団体「私塾ネット」
この20年間で培ってきたことは、人と人との繋げる「ネット（網）」ではなく、繋がる役目をする

「ハブ（Hub）」であること、そのことに我々は改めて気づかされました。

私塾ネット会員の重要な役割は、人と繋がることです。3つの任意団体の歴史も含めれば、人と繋がることを60年営々と続けてきましたことになります。

今回の20周年記念大会。さらに繋がりを深め、新たな繋がりを創るために企画しました。
私塾ネットらしい研修会。今回も参加者全員が主役です。

教育に関わる方が日頃抱えている課題を、小グループに分かれ、経営者、職員、若手スタッフ、教諭、教育関連企業、分け隔て無く学び合います。
奇しくも、4月19日はシジュクの日。東京、お茶の水！
必ず来てくださいね！お待ちしております！

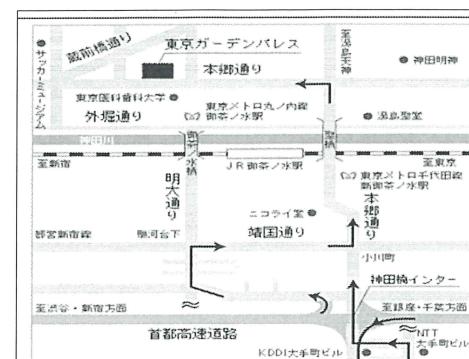
会場のご案内：東京ガーデンパレス

東京都文京区湯島1-7-5 TEL. 03-3813-6211（代表）



■アクセス

- JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口（東京駅寄りの改札）より徒歩5分
- 東京メトロ千代田線・丸の内線「新御茶ノ水駅」より徒歩5分
- 東京駅より タクシーにて約15分 / JR中央線5分「御茶ノ水駅」下車
- 品川駅より JR総武横須賀線快速10分 東京駅乗換 中央線快速10分



◆プログラム

第一部 研修大会

4月19日(日) 開場 午後1時30分 大会 午後2時00分~5時45分

①『20周年記念式典』(45分) 午後2時00分~2時45分

オープニング 映像で贈る「私塾ネット20年」

◇ 主催者ご挨拶：私塾ネットセンター理事長：仲野十和田(東京・埼玉：ナカジュク)

「この20年、この10年。そして深化する私塾ネット」

ご来賓祝辞 (私学代表、学習塾代表、協賛企業代表)

功労者へ感謝 長年のエリア代表、そして元エリア代表 全国から状況報告。

「私の代表時代、そして、現在の地域の様子」

ご連絡

<休憩 15分>

②現場の教育力を上げる。深める。深まる。セッション『最近の気がかり、なあに?』

午後3時00分~5時45分(2時間45分休憩含)

テーマは大きく分けて。。。6人1組になります。

・国語やその他の授業について ・英語、社会やその他の授業について

・数学、理科やその他の授業について ・インクルーシブ教育 ・その他

<途中休憩15分>



ファシリテーター: 小山英樹先生

<プロフィール>

一般社団法人日本教育メソッド研究機構(JEMRO) 代表理事

一般社団法人日本青少年育成協会(JYDA) 教育メソッド普及委員長

株式会社対話教育所 代表取締役、1965年 京都府綾部市生まれ

私立高校教諭、民間教育機関社員・役員を経て現職。

Refメソッドを柱とした教育・人財育成プログラムを開発、学校・塾・教育委員会・プロスポーツ・企業等において講演・研修活動を行う。その参加者・受講者は15万人を超える。

<主な著書> この一冊でわかる! アクティブラーニング、子どもの心に届く言葉、届かない

言葉、子どもを伸ばす5つの法則、子ども本当の幸せをつかむパパ・ママコーチング

第二部『懇親会』 午後6時20分~8時20分

熱気あふれる第一部に引き続き、第二部ではお食事をしながらさまざまな意見交換・情報交換をいたしましょう。

・ウェルカムミュージック 「100万人のクラシックライブ」

・主催者御礼およびご挨拶：

私塾ネットセンター理事長：仲野十和田 (東京・埼玉：ナカジュク)

・乾杯

・ご来賓祝辞 (私学代表、学習塾代表、関連企業代表)

・私塾ネット エリア便り

・みなさまより、お一言ずつ

・私塾ネット 恒例 おたのしみい～ (^o^)



私塾ネット関東・塾全協東日本ブロック合同研修会 テーマ「自立型学習塾の新しいカタチとは」

日時：2019年12月8日

会場：スタディプラス株式会社（御茶ノ水）

12月8日、NPO学習塾全国連合協議会・東日本ブロックと私塾ネット・エリア関東の合同研修会が御茶ノ水・スタディプラス株式会社で行われました。

テーマは「自立型学習とStudy for school」。学習管理SNS、Study Plus for schoolを用いた実践例の紹介でした。

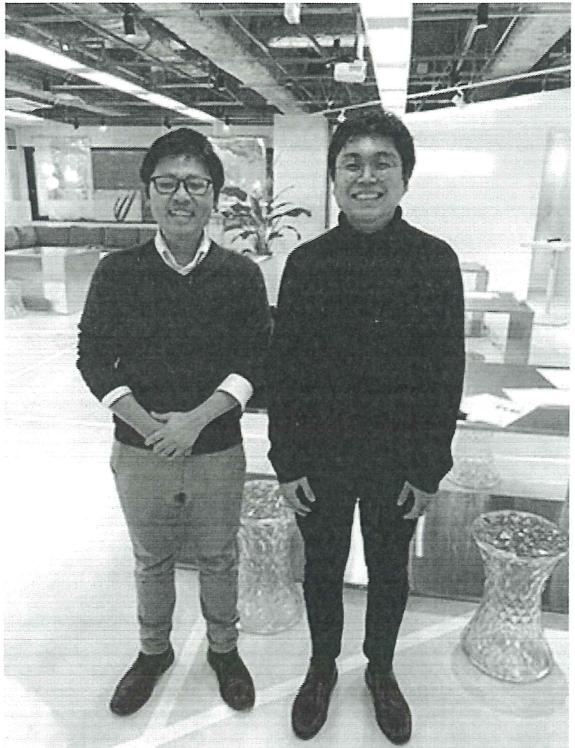
前半はスタディプラス株式会社取締役宮坂直様より、全国の塾予備校をうかがう中肌で感じている社会や業界の流れ、自立型学習というトレンドの本質について伺いました。



研修会に先立ち挨拶をされる
NPO塾全協沼田会長

後半では、Study Plus for schoolを実際に活用しているラボ寺子屋塾長でナカジュク蓮根教室・教室長の小泉正太先生より事例紹介を含めた現場目線でのお話を聞きました。「コミュニケーションの質を頻度を高く」というお話や「生徒の頑張りを認め、生徒を支え、質の高い学習

へと導く」といったお話を興味深く聞きました。特に強調されていたのは、オフラインでの声かけでした。スタプラに頼りすぎないで、できるだけ対面でコミュニケーションをとることの重要さを説かれていました。



研修会講師を務められた宮坂直氏(右)と小泉正太氏



会場はスタディープラスさんの最新のすばらしいオフィスをお借りした

今回の研修を受けてStudy Plus for schoolを導入された中村庸彦先生（中村学院）にインタビューをしました。

——スタプラを導入された経緯をお聞かせ下さい。
中村「生徒とより密に接することが出来ると思い、導入しました」

——導入する前と後では、生徒にどのように変化がありましたか？

中村「前に比べて、積極的に勉強してくれるようになりました。またこまめにやりとりをしているので、会話が増えました」

——具体的にどういうタイミングで生徒とコンタクトを取っていますか？ あるいは、どういう時に生徒からコンタクトがありますか？

中村「これはスタディプラスのスタッフの方からアドバイスを頂いたのですが、勉強記録をつける一番初めが難しいということだそうです。ですので、ある授業の時間中に今日の授業内容を記録してもらい、すぐに一言返信しました。その後は一日に一度くらいは何か勉強記録がつくようになり、スマホでチェックして気づき次第リアクションをしています」

——生徒の自立学習を促す成果は得られましたか？

中村「かなりあったと思います。自分で記録してそれを見てもらえるというのが効果的だったと思います」

——現在何人くらいの生徒とスタプラで繋がっていますか？ またスタディプラスで思うようにいかない生徒がいましたら、そのケースの理由を教えてください。

中村「23人です。あまり記録がついていない生徒もいます。ただ、スタディプラス上で簡単に連絡できるので、こまめに連絡を繰り返しています」

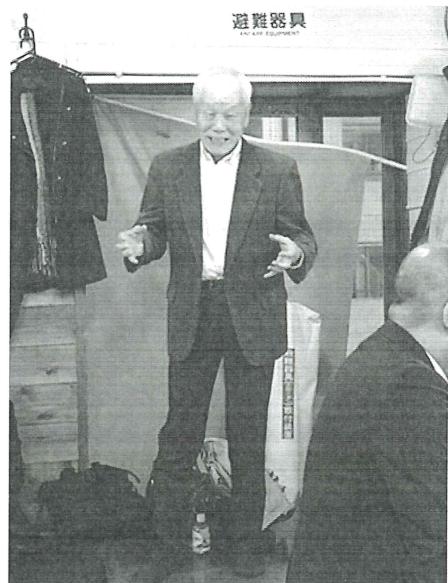
——基本的なことを聞くのですが、生徒は勉強時間や単元名を記録するのですか？

中村「記録時間はストップウォッチ形式で記録できます。単元名は各自、自由ですが、『細かに記入したほうが勉強した気になるので、書いたほうがいいよ』とは伝えています。」

新しい自立型学習のカタチ、気になった方がいましたら、是非問い合わせてみてください。

引き続いて午後5時30分から、近くの居酒屋を会場に忘年会を開きました。今年は塾団体の合同忘年会がありませんでしたから、私塾ネットと塾全協さんの「合同」忘年会となりました。塾全協さんとのコラボ研修会も今回で2度目、ますます交流が深まりそうです。

さて、この1年は私塾ネット会員塾にとって、決して順風な塾環境ではなかったと思われます。一年の邪氣を払い、来年の運気を引き込む思いで、大いに盛り上がった一夜になりました。



業界の重鎮、玉城邦夫A.J.C副理事長（私塾ネット会員・千葉県）の熱弁おおいにされて会場大盛り上がり



鈴木正之会長(右)と田中宏道研修部長、研修会前のくつろぎの時間、現場のしきりは若手？の皆さんが…



教育・不登校フォーラム in 吉川に参加して

私塾ネット副理事 中村直人



令和元年12月14日(土)に、吉川市市民交流センター多目的ホール「おあしす」にて、NPO法人フォーユー研究会主催、後援：吉川市教育委員会・越谷市教育委員会、協力：つばさ高等学院・つばさスクールの「教育・不登校フォーラム in 吉川～誰もが輝くために～」というセミナーが開かれました。司会は、小野田光伸先生です。

1. 研究会代表理事の仲野十和田先生ご挨拶

NPO法人フォーユー研究会、つばさ高等学院・つばさスクールなどの通信制高等学校サポート校やフリースクールの理事長をしておりますが、母体は33年ほど経営をしております学習塾です。塾を始めた頃から、学校と地域と保護者、それが一緒になって子供たちにかかわるのが一番良いといつ



も思っていました。実際は、塾と学校があまりうまくいっていない地域も多いですが、最近では、だいぶ仲良くなっています。私はあえて学校に行って、問題の生徒の共有をします。共有できるということは、その生徒のためにとてもいいことなのです。6年ほど前に吉川市で通信制高等学校サポート校、フリースクールをはじめる前後に、「不登校の子供を持つ親の会」のお仲間にしていただき実態を学び、また学校へも行ってとにかく三位一体となって、子供たちのことを考えたいということを一番に思ってやってきました。そして今は、学校の方・われわれ民間・不登校の親のOBの方たちとの「学びの会」という勉強会を年三回吉川市で開催しております。お互いどういう気持ちで子供たちと接していくか、それぞれ立場の違いがあり、一生懸命にやっているにもかかわらず、それらがあまり子供たちに伝わっていないようなところもありますが、それらが伝わることで、だれが一番幸せになるのかといえば、子供たちということになるのです。今そういうことを実践しています。

2. 基調講演 「自分をもっと大好きになりたい方法 みつけた5つの魔法」

菅谷晃子さん（豆腐屋あこ）

昔なつかしい真鑑のお豆腐やさんのラッパを鳴らし、あこさんが登場しました。かわいらしい声でPVで紹介から始まります。子供のころのいじめが原因で、ずっと自分に自信が持てなかった。自分には価値がないと思っていた。なにをやってもなんにも続かなかつた。そんな私が見つけた居場所。

(ラッパを吹く) 毎週おんないじ曜日に、おんないじ時間に、

大雪で前に進みづらい時も大好きな虹色の傘とリアカーで、お客様の優しさに触れながら歩き続けました。豪雨の中も、時には頑張って笑顔を絶やさなかった。真夏の猛暑の日には、氷の量を増やすのでリヤカーは



80kgを超える。コンクリートから咲く花を見ては、私もきっといつか強く咲くんだと心に誓い、この宝物の真鑑のラッパで(ラッパを吹く)歩き続けて16年になりました。

そんな私がお客様から学んだことは、生きる尊さ・誰にでも役割があるということ。こんな私を待ってくれている人がいる。私でも人の役に立つことができるんだ。日々の仕事の中に、たくさんのドラマがありました。だんな様を亡くされたおばあちゃん・明日も仕事?って聞いてくれる胃が半分しか無くなっちゃったおじいちゃん、お豆腐でおじやを作るんだって。リアカーは、町のコミュニケーションの一部になっているみたい。あんたの働く姿を見ると元気が出るよ、何にもほしいものないけど、1個くらい買ってやるよ。足が痛くて困っていたの。俺の作った味噌汁飲んで行けよ。本当の笑顔になれたのは、たくさんの出会いの中で「ありがとう」という言葉をもらい続けてきたおかげです。

恩返しがしたい。超後期高齢化社会、今は八軒に一軒が一人のお年寄りが住む時代です。人工知能や利便性が加速し続ける中、今だからこそ必要なのは、温もりのあるコミュニケーション・安心できる人間関係だと思います。みんなの笑顔を守りたい。だから今日も行く。あこのありが豆腐です。

今日は、自分自身を見つめながら、みんなで自分自身を大好きていれるような時間を持ちたいと思います。(二人一組になって、あこさんの言葉に対し互いに自分のことを発表しあう。私は石川大樹氏とペアになった。楽しかった。)間にいろいろ自分の体験から気づいたお話をなさるのですが、どれも実際に心にしみる。今は穏やかでにこやかですが、お話を聞くと若いときはここに詳しく書きませんが地獄の日々を過ごされたようです。23歳のある日にお豆腐の引き売りと出会い、人生の一大転機を迎える。皆にありがとね、ありがとねと言われるようになって、物事や人に感謝できまた自分のことも好きになってきたそうです。エピソードを全部は書けないので、ネットで「あこのありが豆腐」で検索していろいろ調べてみてください。5つの魔法ほか、もっといろいろ書くこともありますが泣く泣く省略です。とにかく、人はあるきっかけで真っ暗闇のどん底からこのような天使あるいは菩薩になれるものなのか。全くすごいことです。

3. セミナー

春日部市立武里中学校 教諭 石川大樹氏



特別支援教育コーディネーターをなさっている石川大樹先生が、「～中学校的現場から見て～」というテーマで不登校の現状および特別支援教育と教育相談の融合についてお話し下さいました。始めに、教員は「学校が好きだった」ので、「学校が好きではない」ということを感覚的に理解できない面があると言います。迎えにいったたり、親に協力してもらったりしてなんとか学校に来させようと努力してしまいますが、不登校の生徒は、学校に対しての「安心感の枯渇」「不全感（うまくいかないな・いや

だな)の高まり」を抱えているのでうまくはいきません。不登校に対しての最低限必要な理解として、1. 「怠け」や「甘え」ではない 2. 長期不登校は本人にとって「楽な状態」ではない 3. 本人が理由を明確に述べられないケースが9割をこえる という3点を挙げました。調査によれば、<不登校>が4.5%、<隠れ不登校>が14.3%（部分登校・相談室利用・保健室登校）、<仮面不登校>が9.3%（教室にいるが学校に行きたくない気持ちを持っている）、<合計>28.1% 3割弱が学校教育がいやだといっているデータがあります。

特別支援教育領域として2つ、disability群（知的障害・視覚聴覚障害・肢体不自由・病弱など）⇒就学支援・学びの場の検討・支援、disorder群（ASDアスペルガー症候群・ADHD・LDなど）⇒学び直し・育て直し・適応状態の改善が可能

教育相談領域として2つ、disease群（心療内科・精神科・長期的な医療対応）⇒医療と教育の情報連携と棲み分け・素人判断の禁止）、外的阻害要因（いじめ・集団不和・親子関係・虐待・ネグレクト）⇒早期に積極的に組織的に介入

以上を具体的な対応組織やその難しさについても細かく話されました。最後にアセスメント（子供の状態像をより深く、的確に理解し、効果的な支援への指針をつかむこと）について話され、周囲の期待に過剰に応えようとしてつぶれて不登校になる「過剰適応してしまうタイプの生徒」もいることを教師は理解しておく必要もあると指摘されました。

4. 石川大樹氏、学校に行かない子を持つ親の会代表：平井幸子さん、元つばさスクール生保護者：杉本紀子さん、つばさ高等学院／つばさスクール：西中伸氏、埼玉県戸田翔揚高校：神成龍楓氏 以上4名によるパネルディスカッション 司会：小野田光伸先生

自己紹介から、小野田先生が質問をして各人が答えるという形式で進行しました。

その1 学校以外の多様な学びの場があるが、まず身近で起こっていることについて

その2 みなさんの体験から、子供たちがより輝くために大人ができるることはなんでしょうか。

発言が多岐にわたり、また時間もつき、各パネラーへの拍手で終わる。紙面の関係で詳細を書くことができないことをお詫びします。



クロージングセミナー

つばさ高等学院板橋校校長 林真路氏（心理カウンセラー）の10分間のお話がありました。

カウンセラーとして相談を受ける中で、子供が自分を傷つけてしまう、死んでしまいたいといったときに、子供にどうかかわっていいか分からず。ということが今まで多く聞かれてきました。大人も子供も同じで、答えは、今のその人自身のありのまま・そのままを受け止めて認めてあげる、大切だと言つてあげることで、氏は存在を大切にするかかわりと言っています。言い換れば、あなたはあなたの今までいいんだよということです。学校へ行かなくてもいい、勉強できなくてもいい、お父さん・お母さんはあなたの一番の味方だよと言ってあげる。だんだんと元気になっていきます。子供はがんばりたいのだけれどそれができない、そういうできない自分に価値があるのか。価値がないのではないか、いらないと言われているのではないかと、自分の存在を否定してどんどん苦しくなり、死にたいとなつていく。また勉強ができる、仕事ができる、なになにができると、機能が重視される世の中で生きてきているために。できない自分の価値を見失い気が重くなつて苦しんでいく。存在を大切にするかかわりと、機能をたいせつにするかかわり、どちらも同じ愛情ですが、そのかけかたの違いで苦しくなつたり楽しくなつたりする。大事なのは、子供のことを信じてあげる、また信じられる大人になる、話をしっかりと聞いてあげる（意見するのではなく）そして認めて信じて待つてあげる、いっしょに考えてあげる、といった存在を大切にするかかわりが、最初の問い合わせに対してのかかわり方になります。

終了後、個別の相談の場が設けられました。残られたあこさんともお話しする機会があり、今回も参加して、心に残る有意義なセミナーでした。貴重な機会を与えてくださった、仲野先生ほか皆様ありがとうございました。

※ 学習塾事例集作成中止のお知らせ ※

私塾ネット副理事 中村直人

ネット広報第67号と68号で愛媛の十亀幸雄先生よりご提案がありました、学習塾事例集の記事を載せたのですが。6ヶ月たつても全くの反応なしなので、作成中止ということになりました。私塾ネットとして取り組む価値がないという判断なのでしょう。

塾の直面する問題に対する事例を何年か積み重ねて、それなりの内容の物ができれば、新しい塾への勧誘や、他団体への私塾ネットの塾人としての矜持を示せ、さらには佐藤勇治先生の「塾の歴史」の資料にも小さい足跡を残せると思ったのですが、残念です。



私塾ネット広報・表紙は語る 20周年記念号予告

4月の20周年記念研修大会にあわせて、広報記念号の制作を準備している。その編集企画の中で「表紙は語る」というコーナーを計画している。

広報は号数を重ねて69号、次号の記念号で70号の節目となる。現在は年4回の季刊だが、初期の頃は不定期な時期があったので、20年で80号とはいいかない。

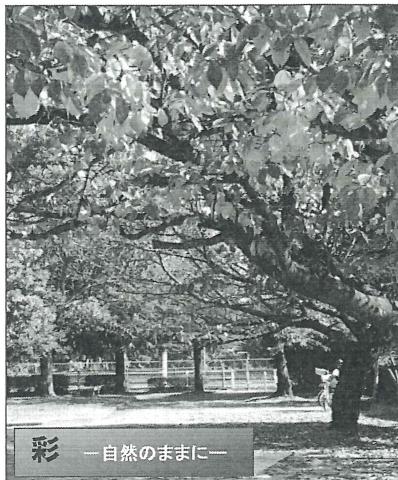
2009年10月の28号から、表紙を飾る自撮りの写真とエッセイで構成する「フォート・ほっとコラム」が始まった。制作をエリア中国の芸城学院城忠道先生にお願いした。この企画は2016年2月の第53号まで続いた。

次いで同年5月の54号から、エリア関東の中村学院の中村直人先生にバトンタッチした。奥様の光江さんがちぎり絵を趣味とされ。たくさんの作品を創作されていると聞き及んだ、そこで、その絵に直人さんの俳句を添えるという企画を思いつき提案をした。直人さんご本人は抵抗をされたのだが「夫唱婦隨が町の塾の真骨頂、これはやらねば」などと屁理屈をつけて頼み込みこんだ。小生、誌上句会でまとめ役と寸評を担当している立場上、ちぎり絵と俳句に愚にもならぬ随想を添えることになった。こうして三位一体の荒業で「ちぎり絵歳時記」が始まるようになった。この企画ももう4年、そろそろ大団円のタイミングかな。

編集部：谷村志厚

フォート・ほっとコラム

<人にもそれぞれの彩あり>



塾舎のすぐそばに小さな公園があります。この公園には数本の桜があり、それが毎年秋になると鮮やかに紅葉します。その紅葉の一枚一枚の彩の違いと美しさに自然の造形美のすばらしさに驚かされます。

われわれが日ごろ生活していく中で、他人を自分の色に染めようと、上手くいかなくて

ストレスをためることがよくありますが、そんな時、価値観も考えも違う他人を自分の色一色に塗り変えてしまおうなどと考えないで、その人が持っている「彩」の美しさを生かすよう、そこにスポットライトを当ててみてはいかがでしょうか。

きっとその方が労力も少なく、ストレスも感じずに人を輝かせ、調和のある素敵な人間関係を構築できるのではないかでしょうか。

(城 忠道 エリア中国・芸城学院)

↑2009年10月・25号と↓2016年5月・54号

ちぎり絵歳時記①（花しょうぶ）

鳥の鳴く谷戸に一叢花しようぶ（直人）



長きにわたって広報の表紙を飾ってきたのは、エリア中国の城忠道先生の写真とそれにそえるエッセイであった。大変ご好評をいただいた企画であったが、お申出により前号の「歎戒」を最終回として、一連のシリーズに終止符を打つことになった。

さて、今号から表紙に花を添えていただくことになったのは、川崎市の中村学院の中村直人さんと奥様の光江さんである。光江さんが趣味で続けられていてるちぎり絵に、直人さんがその絵を詠んだ俳句を添えるという趣向。当初は俳句を添えるという提案に難色を示された。しかしながら、夫唱婦隨こそ私塾の本來と口説きおとし、第1回の日の目をみることになつた次第だ。

掲句の「谷戸」は「やと」と読み、「谷津」「谷地」とほぼ同義である。谷状の地形にある里山の初夏の風景だが、鳥の鳴き声、おそらくウグイスであろう音声が添えられることで、閑静な過疎の里山にもぐらか明るさが差したようである。

（谷村）

経済産業省より以下の調査についての依頼が来ております。会員塾の皆様にはご協力をお願いいたします。

特定サービス産業実態調査の実施について（お願い）

経済産業省大臣官房調査統計グループ長

平素より、経済産業省が実施しております各種統計調査の実施に当たりましては、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当省では、特定サービス産業の売上高等の経営動向を把握し、景気動向の判断材料に資するとともに、産業振興施策、申小企業政策の推進及びサービス産業の健全な育成のための基礎資料を得ることを目的として、「特定サービス産業動態統計調査」を毎月実施しており、その結果は、GDP統計や第3次産業活動指標などの経済指標の基礎データ等広く活用されているところです。また、「平成28年経済センサス活動調査」の結果によると、我が国の全産業におけるサービス業を含めた第3次産業の割合は売上高で約7割、従業者数で約8割を占めるまでに至つております。サービス産業の動向の的確な把握はますます重要になってきております。

つきましては、本調査の重要性について御理解いただき、引き続き2020年1月分以降の調査につきまして、貴傘下会員各位の御協力を賜りますよう、会報、会合等において御周知、御指導いただきたく何卒よろしくお願ひ申し上げます。なお、本調査は、統計法に基づく一般統計調査として実施され、記入された調査票の内容についての秘密は厳重に保護されております。

小宮山博仁（教育評論家・私塾ネット名譽会員）氏が私塾ネット会員に贈る 「持続可能な社会」を読み解くガイドブック

コンテンツ

- 序章～グローバリゼーションと持続可能な社会～
- 第1章 グローバル化した社会を知る
- 第2章 持続可能な社会を探る
- 第3章 教育と社会・経済の関係を知る基礎理論
- 第4章 日本の社会を知る

第5章 OECDの教育政策提言を知る

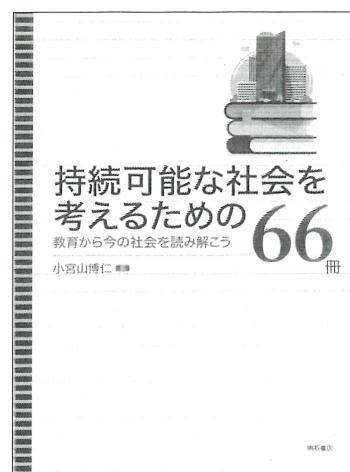
- 第6章 日本の子どもの教育と学力について知る
- 第7章 教育で持続可能な社会に
- 終章～成熟した社会での教育と幸せ～

2020年1月刊行
定価2,200円+税
明石書店

近年よく耳にする言葉に「持続可能な社会」がある。さて、あなたはこの「社会」をどう理解しておいでだろうか。

本書によると「人間と自然が共生し、持続していく社会。それは経済活動と自然的環境のバランスをとる、健全な市民社会である。なお健全な市民社会とは、適切な所得再配分が行われる福祉国家を想定している。」と定義している。

本書は作者（小宮山博仁）が精選した66冊の書評で構成されている。読者それぞれが興味のある分野から読み進めることで、「持続可能な社会」を考えなくてはならない時代に、我々が今まさに直面していることを理解するであろう。そしてそのキーワードは「教育」であることを認識することになる。「持続可能な社会」を読み解くガイドブックとして、あなたに大きな助言を与えてくれる一書である。



私塾ネットセンター役員会のお知らせ

事務局長 鈴木正之

今回の役員会は、4月の代表者会議の準備会と言う位置づけで予め意見交換を行います。そして代表者会議は決議及び、さらに発展的な話し合いを期待しております。対象者は、理事長、副理事長、会長、副会長、各部長、エリア代表、監事、および次年度運営に関わる先生方です。会員の皆様もオブザーバー参加歓迎です。また、来年度以降の私塾ネットについてのご意見も承ります。suzuki@ibukigakuin.co.jpまでメールでお願いいたします。詳細につきましては、対象の役員の皆様にはすでにメー

ルにて連絡差し上げておりますので、そちらをご覧ください。

《議事予定》

- ①新役員の件
- ②エリア活動の件
- ③20周年記念式典及び全国研修会の件
- ④学習塾団体の再編と今後の私塾ネットの対応の件

NPO塾全協さんとイベントの共催をするなど、団体間の交流が盛んになっています。社会の動き、業界の動き、他団体の動きを踏まえ、私塾ネットは今後どうあるべきか、意見交換を行います。

- ⑤その他

私塾ねつと詩上句会 第三十七回

冬ざれや存在感あり枯れすすき

白籠にポインセチアの赤映えて

人も古希を過ぎるとまさに枯れすすきのようである。ともすると社会の隅に置き忘られかねない。掲句のごとく「存在感」保ち社会といかに伍していいかが問われようか。おつとこれ作者の中村さんのことではありますかが問わず語りの一言です。

中村直人

(神奈川県)

立春や山川海に疼きあり

白梅に追いつき咲くや赤き梅

立春の句、下五の「疼き」が秀逸です。初春の自然の胎種を、「疼き」と表現すると枯れた俳句の妙が際立ります。梅の胎種に「思いのまま」というのがあるのをご存じだらうか。梅の胎種に咲く品種で、接ぎ木ではない木でござる。ご興紅品動

木内恭裕

(徳島県)

青い空梅と桜の競い咲き

長江勝秋

(神奈川県)

寒波の朝羽毛布団をたぐりよせ
近年の異常気象は世界的な規模なだけにまことに不気味だ。
事実年に直面した。梅と桜の競い雪害」という矛盾した話た
である。2月の風物詩になつていいようだ。

葬送のオルガンの音や冬陽ざし

谷村志厚

(千葉県)

海明けや漁船の水脈に朝茜
編集後記で触れたが、兄の葬儀が東京の国際聖路
大に奉職して40余年を過ごした。敬虔と美しい
立教の聖歌隊の同僚の皆さんは、ふさわしい
見送った。彼を送るには、朗々と讃美歌場所である聖
ク路ヤ

編集部からお願ひ
次号は5月上旬発行の春号です。
投句は「お一人3句まで春の季語でお願いします。
投稿はメールt-shiko.1949@ainet.netまたは
FAX047-368-2189 谷村まで
締切は4月末日です、ふたてて」投稿ください。

閑話休題（編集後記） 編集長 谷村志厚

P2の理事長コラムで仲野理事長が梶原賢治先生の近況を伝えている。梶原先生は私塾ネット創設期から、長くセンターの副会長を務められていた。ここ数年お会いする機会がなかったが、仲野さんレポートのとおり出色の活躍をされておられた。長く幼児教育に得組んでおられたが、その果実が大きく実ったようである。広報次号は20周年記念号だが、それに朝日学習館の活躍レポートをお願いしたいものだ◆P4のエリア通信で、四国代表の近藤先生が長文のレポートを寄せられた。長く高校生を対象に大学入試の指導をされているだけに、このところの大学入試改革の迷走ぶりにそうとうご立腹の様子。日ごろ温和な近藤先生だが、ついに堪忍袋の緒が切れたかな◆P8.9でエリア関東の研修会をレポートしている。今回もNPO塾全協東日本ブロックとの共同企画。中小塾受難の時代にあって、任意団体も結束の時代である◆幻の令和元年入試。5月に元号が変わって年明けには令和2年となった。昨年の入試は平成31年度入試であったので、令和1年度の入試は受験史上記録がないことになる。平成1年度入試はどうであったろうか。昭和天皇の崩御が1月7日、平成元年は翌8日から始まったので、多くの受験生は1年度入試を体験したことになる。まあ、どういでもいいことですがね◆令和2年の1月はまことに憊ただしいことであった。じつは1月8日に実兄を亡くした。それも小生の目の前での突然死であった。当欄にはふさわしくない話だが、稀有な体験なので紹介をさせていただく◆兄は昨年の夏に脳梗塞を患い、都内のリハビリ病院に入院していた。2月に別

の施設に移る予定であった。1月8日、入所を希望するその施設を見学することになった。車いすの兄を介護して施設の窓口に行くと面接室に案内された。車いすの後ろを押しテーブルに寄せると、兄の背と首ががっくんと揺れた、眼鏡が飛んだ。なにごとか?状況がつかめぬ。彼の顔からたちまち血の気が引き、呼びかけにもいっさい答えない。あわてて職員をよぶ、施設の医者と看護師もやってくる。すぐに心臓マッサージがはじまる◆そうこうしているうちに救急隊が到着、兄と私は救急車に乗せられた。そしてわずか10分、聖路加国際病院の救命救急センターに入り、処置室へ。待つこと40分、担当医から兄のベッドサイドへ呼ばれる。目の前に置かれた数台のモニターには、ほんのわずかな波形が。そしてそれが途絶え臨終の時が…。突然の発作からこの時まで、兄に付き添ったのは私ひとり、そしてその間わずか1時間と15分の出来事であった◆聖路加は兄が40余年の間、事務職員として勤務していた病院である。じつは昨年8月に倒れ入院したのもこの病院であった。彼は聖路加を心から愛し退職後も近くに居を構え、付属教会の教会員でもあった。11日、教会の礼拝堂で告別式が執り行われた。司祭を務められたのは兄の旧知の牧師さんであったが、この方のお言葉にとても印象に残る一節があった。それは、人の一生はステンドグラスのようなものである。大小さまざまなガラス片と明暗さまざまな光で彩られている。ある時は明るく大きく、またあるときは暗く小さく。今皆さんには故人を送るにあたって、氏の大きく明るくキラキラと輝くさまを思いつつ、お別れをしていただきたい。故人への思いと含蓄に富んだ説教であった。

私塾ネットセンター 事務局通信



事務局長補佐 中村庸彦(中村学院)
1月、2月、3月と受験が本格化しております。皆様、お忙しいことと思いますが、お体にお気をつけください。

さて、当学院では土曜日に自習の時間を設けております。その時間に昨年1年間、ほぼ毎回来て、テキストの問題や与えられたプリント課題などを着実にこなし続けた小学生がいました。漢字の読み書き、音読、算数の図形問題がとても苦手な彼は算数や漢字の力を伸ばそうと努力を続けました。しかしながら、漢字や図形がなかなかできるようになります。とてもとても努力不足とは言えない中で、私は若干LD(学習障害)を疑いました。残念ながらプロではないので、その正確な判断ができるわけもなく、お母様との面談で一度どこかで検査をする事を勧めることに。その際、現状の教育環境の中でどのような対応があるのか具体的にお話をすることができ、さらに幸いなことに担任の先生が元支援級の担当でいらっしゃったこともあり、検査へのご提案をとても好意的に捉えていただきました。

また、1月に、通われている生徒の弟さんが体験授業にいらっしゃいました。野球の練習帰りにきたのか、少し汚れた格好ながら元気に礼儀正しく挨拶

をしてくれて、これから授業が楽しみです。その際、一緒にいらしたお母様にお姉さんの様子を伺うと、スマホで勉強の記録をつけており、それが励みになる。導入してよかったですとお言葉をいただくことができました。

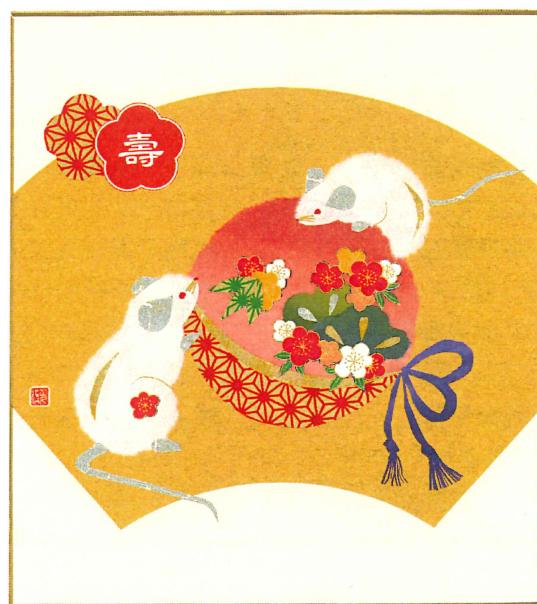
お気付きの方もいらっしゃったかと思いますが、どちらも、昨年行われた私塾ネットでの研修のおかげです。インクルーシブ教育は私に幅広い見方を教えてくれて、お子様への接し方にも幅を持たすことができるようになりました。

また、「studyplus」の導入で生徒とのより密なコミュニケーションが可能になりましたし、ICTへの接し方を考えさせてくれる良い機会を与えてくれました。

よく生徒には「教わったことを活かすのは自分だ!」などと大きいことを言っておりましたが、自分自身を顧みると教わったことを活かせたのか、甚だ疑問を感じます。しかし、今回の2つの出来事を経て、学んでいくことは「いつか」役に立つとしみじみ感じました。慌てて、力をつけさせて、焦って、結果を求めるのではなく、少しずつ栄養を与え、太い根と幹を作る。そんな教育は面白いのではないでしょうか?

し余いそび且背発はにだとののめ衰い2の頭干
まつスうよに中を、、ろこだモてえた才寅に支
つて、ピだんはにし自リうろがデ日、だの年戻が
た、ー。と一乗た分ーかで。ル向貧い若のつ巡
と神ド一飛番る。はダ。千ーにぼ相た々年てつ
い様で番び乗ことこれきを決めるか、
う。の神最下りにを見ゆるか、
猪を過ぎて、神して、いの牛を、
猛進の戒めここに、突つソリ乗挨拶ん、
の戒めここに、突つソリ乗挨拶ん、
に。が誉のちやつと大を、
に。がはたづてと日い来
(志)つ勢すのミ、牛にたた存
ていごだが元の出牛順じ

まつスうよに中を、、ろこだモてえた才寅に支
つて、ピだんはにし自リうろがデ日、だの年戻が
た、ー。と一乗た分ーかで。ル向貧い若のつ巡
と神ド一飛番る。はダ。千ーにぼ相た々年てつ
い様で番び乗ことこれきを決めるか、
う。の神最下りにを見ゆるか、
猪を過ぎて、神して、いの牛を、
猛進の戒めここに、突つソリ乗挨拶ん、
の戒めここに、突つソリ乗挨拶ん、
に。が誉のちやつと大を、
に。がはたづてと日い来
(志)つ勢すのミ、牛にたた存
ていごだが元の出牛順じ



ちぎり絵歳時記⑯(子年) 作画・中村光江

年重ねついにネットも成人式(直人)

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校	村山サンドラー先生 TEL03-3376-2244
東京都渋谷区本町3-2-2	
東洋高等学校	石井 和彦先生 TEL03-3291-3824
東京都千代田区神田三崎町1-4-16	
桜丘中学高等学校	高橋 知仁先生 TEL03-3910-6161
東京都北区滝野川1-51-12	
聖徳大学附属女子中学高等学校	川並 芳純先生 TEL047-392-8111
千葉県松戸市秋山600	
麹町学園女子中高等学校	上田 翼 先生 TEL03-3263-3014
東京都千代田区麹町3-8	
春日部共栄中学高等学校	宇野 祐弘先生 TEL048-737-7611
埼玉県春日部市上大増新田213	
東京立正中学高等学校	安原 正樹先生 TEL03-3312-1111
東京都杉並区堀ノ内2-41-15	
八雲学園中学高等学校	横山 孝治先生 TEL03-3717-1196
東京都目黒区八雲 2-14-1	
武蔵野中学高等学校	浅見尚次郎先生 TEL03-3910-0151
東京都北区西ヶ原4-56-20	
和洋国府台女子中学高等学校	広報部長 様 TEL047-371-1120
千葉県市川市国府台2-3-1	
東洋大学付属京北学園	井出 秀己先生 TEL03-5948-9113
東京都北区赤羽台1-7-12	
大森学園高等学校	三浦 圭 先生 TEL03-3762-7336
東京都大田区大森西3-2-12	
東京成徳大学中学高等学校	野中 修也先生 TEL03-3911-2786
東京都北区豊島8-26-9	
日本工業大学駒場中学高等学校	河村 文夫先生 TEL03-3467-2130
東京都目黒区駒場1-35-32	
青稜中学高等学校	伊東 充 先生 TEL03-3782-1502
東京都品川区二葉1-6-6	
東京女子学園	実吉 幹夫先生 TEL03-3451-6523
東京都港区芝4-1-30	
駒込中学高等学校	河合 孝允先生 TEL03-3828-4141
東京都文京区千駄木5-6-25	
愛国中学高等学校	高橋 英夫先生 TEL03-3658-4111
東京都江戸川区西小岩5-7-1	
安田学園中学高等学校	二木 健嗣先生 TEL03-3624-2666
東京都墨田区横綱2-2-25	
日本音楽高等学校	伊庭 崇 先生 TEL03-3786-1711
東京都品川区豊町2-16-12	
立正大学付属立正中高等学校	今田 正利先生 TEL03-6303-7683
東京都大田区西馬込1-5-1	
上野学園中学高等学校	高橋公三子先生 TEL03-3842-1021
東京都台東区東上野4-24-12	
二松学舎大学付属高等学校	車田 忠繼先生 TEL03-3261-9288
東京都千代田区九段南2-1-32	

村田女子高等学校	遠藤 賢 先生 TEL03-5940-4455
東京都文京区本駒込2-29-1	
自由学園（中等部・高等部）	更科 幸一先生 TEL042-422-3111
東京都東久留米市学園町1-8-15	
京華学園	今野 巍 先生 TEL03-3941-6493
東京都文京区白山5-6-6	
武蔵野大学千代田高等学院	岡田 孝子先生 TEL03-3263-6551
東京都千代田区四番町11	
目黒日大中学高等学校	天野 正貴先生 TEL03-3492-3388
東京都目黒区目黒1-6-15	
共栄学園中学高等学校	松宮 博 先生 TEL03-3601-7136
東京都葛飾区お花茶屋2-6-1	
中村中学校・高等学校	富田 義道先生 TEL03-3642-8041
東京都江東区清澄2-3-15	
文教大付属中学高等学校	神戸 航 先生 TEL03-3783-5511
東京都品川区旗の台3-2-17	
国際高等専門学校	松尾 多郎先生 TEL076-248-1080
石川県金沢市久安2-270	
 株私塾界	 山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル	TEL03-3987-0838
株S R J	板橋 玲 様 TEL03-6865-6380
中央区京橋3-12-7 京橋山本ビル9F	
デザインオフィスズキ	鈴木 学 様 TEL04-7164-8276
千葉県柏市柏687-6	
株エコ ュケーションナルネットワーク	稻垣 憲之様 TEL03-5275-2101
千代田区富士見町2-11-11 峰ビル3F	
株POPER	栗原 慎吾様 TEL03-6265-0951
千代田区東神田2-1-8秋葉原クロスサボ	
株塾と教育社	加藤麻由美様 TEL03-6265-6855
東京都千代田区飯田橋4-4-8-310	
株式会社 ブックモールジャパン	攬上 聰 様 TEL048-447-7457
埼玉県戸田市上戸田4-2-33	
教育開発出版株式会社	糸井 幸男様 TEL03-3304-5321
東京都杉並区下高井戸1-39-12	
株式会社ナイス	佐藤 秀樹様 TEL03-3304-5321
横浜市都筑区中川1-20-1	
(株)クロノクリエイト	添田 大亮様 TEL03-5468-6986
渋谷区神宮前5-52-2 青山オーバルビル	
(株)声の教育社	中村 千尋様 TEL03-5261-5061
新宿区新小川町8-15	
エスディーエムコンサルティング(株)	坂尻 俊樹様 TEL03-3484-1212
調布市入間町1-31-23	
ソルナ株式会社	森 雅人様 TEL03-6721-1861
中央区築地2-9-4 SOLUNABLD	
アロー教育総合研究所	古川 貴央様 TEL03-3259-2851
千代田区神田小川町3-8 神田駿河台ビル5F	